筑波大学 CEGLOC FD 委員会
―2020 年度年間報告―

CEGLOC FD 委員会

FD 委員会のロゴは、CEGLOC で開講されている 9 つの言語（中国語、英語、フランス語、ドイツ語、朝鮮語、日本語、国語、ロシア語、スペイン語）を表している。

CEGLOC FD 委員会のミッション

CEGLOC FD 委員会は、教職員が（1）教育において直面する課題に対処するための教育や教授法の実践および（2）各自の研究という課題に関して協力し合い、トレーニングを受けるための多言語による討論の場を提供し専門的成長を促すことを目指している。

CEGLOC FD 委員会のビジョン

1. ミニ・カンファレンス：学術及び教授法において教職員を支援するためにワークショップやラウンドテーブル、セミナー、講演などを開催する。
2. 新任教職員に対するオリエンテーション：大学の組織や慣例を理解するための説明会を開催する。
3. 教職員の学習コミュニティ：同じ関心を持つ研究者同士の共同研究グループの組織づくりを促進する。

2020 年度における FD 委員会の役職

A)	委員長	ヴァンバーレン　ルート
B)	副委員長	サンドゥ　ロクサナ（2020 年 9 月末まで）
C)	書記	ヤマダ　ナオミ
D)	会計係	イスマイロフ　ムロド
E)	編集係	ジャクタ　ブルノ & 磐崎 弘貞
F)	日本語関連編集係	今田 水穂 & チョーハン アヌブティ
G)	アンケート係	サンドゥ　ロクサナ（2020 年 9 月末まで）
H)	宣伝係	ルーデ　マークス & プヨ バティスト

2020 年度における FD のイベント

- 第 1 回：プロジェクト管理ソフト Bitrix24 についてのセミナー
- 第 2 回：オンライン教育経験の共有 (1)
- 第 3 回：第 2 回 外国人研究者のための科研費セミナー
- 第 4 回：オンライン教育経験の共有 (2)

• 第 5 回：第 4 回 CEGLOC カンファレンス、2020 年における語学教育：緊急遠隔授業とブレンド型学習

本報告の英語版は『外国語論集』第 43 号に掲載されている。

CEGLOC で FD に関するイベントを計画されている方に対して、FD 委員会は企画及び財政面で支援を行なう。詳細は，以下の E メールアドレスに問い合わせられたい：ceglocfdcommitteeevents@gmail.com

—2020 年度 第 1 回 FD イベント—

タイトル：プロジェクト管理ソフト Bitrix24 についてのセミナー
日時：2020 年 6 月 1 日（月）9:00 ～ 10:00
開場：オンライン、筑波大学
主催者：グローバルコミュニケーション教育センター FD 委員会

概要

CEGLOC FD 委員会は、プロジェクト管理ソフト Bitrix24 を紹介するオンライン会議を開催した。現状を鑑みると、CEGLOC FD 委員会はリモートにて共同作業を促進する必要があり、そのためにはオンラインのプロジェクト管理ソフトの導入が必要と考えられる。その方策ひとつとして、Bitrix24 を 2020 年 12 月の定例 CEGLOC FD 大会の準備のために活用することが検討された。本セッションは、オンラインでのプロジェクト管理を共同で行うことに関心を持つ教職員に向けて、同ソフトを実演・紹介する機会を提供し、今後の委員会活動での利用についても検討した。

プログラム

発表者 : Bruno Jactat 人文社会系助教

1. イントロダクション：プロジェクト管理ソフトとは何か
2. Bitrix24：主要機能の概要
3. 作業チームの作成
4. プロジェクトの作成：タスク担当、締め切り、カレンダー、ガントチャート
5. 作業の合理化
6. Q&A

活動内容

内容紹介を受けて、13 名の参加者から本ソフトについての機能・有効性についての多くの質問が寄せられ、それについて議論した。便益としては、Google カレンダーよりも

機能が豊富であること、タスクを可視化・委任しやすいこと、一貫した作業を構造化しやすいこと、現在 FD 委員会が使用している Google Drive からも移行しやすい点が挙げられた。しかしながら、最大の問題点としては、本システムに移行し習熟するためには相応の時間がかかることで、現在、コロナウィルス対策でオンライン授業を準備している中での更なる新システムへの移行には慎重論が出された。よって、本ソフトの FD 委員会での導入については、さらに検討を重ねることとなった。

—2020 年度 第 2 回 FD イベント—

タイトル : オンライン教育経験の共有
日時 : 2020 年 6 月 29 日（月）9:00 ～ 10:00
会場 : オンライン（筑波大学）
主催者 : グローバルコミュニケーション教育センター FD 委員会

概要

6 月 29 日、CEGLOC FD 委員会は 1 時間のオンライン Zoom セッションを開催し、現在のオンライン教育の実践についての意見や経験を交換した。オンライン語学教育の限界と可能性に直面する中、これまでに蓄積された戦略やヒントを相互に交換するためにこのセッションを開催した。

活動内容

参加者は表示名に日本語 (J) または英語 (E) を表示し、それぞれの言語の分科会に分かれた。合計 15 名の参加者が 4 つのブレイクアウトルームに分かれ、「何をしているか」「何を学んだか」「他の教員や学生に伝えたいことは」「問題は」について議論した。その後、メインセッションを行い、各分科会の概要の報告 (口頭および Zoom チャット) と翻訳、全員での議論を行った。

分科会報告

グループ 1

LINE、Zoom、manaba、Teams、Flipgrid などを使っており、授業は順調に進んでいる。試験でのカンニングが問題となっており、解決策として自由形式のテストや制限時間の設定が挙げられる。オンライン授業に出てこない学生も問題となっている。

グループ 2

Manaba、Zoom 等を利用しているが、対面での交流時間の長さは各授業で異なる。学生同士の協力が技術的な問題に対処する際に役立った。学生や講師のつながりの確保や、

就職活動のための面接技術の指導方法について話し合った。

グループ 3

Manaba、Zoom、Stream、Edmodo を使用しており、様々な活動が可能である。ソーシャルスキルや時間の問題に直面している。次学期のオンライン授業への準備について懸念が出た。学生たちはオンライン授業を気に入っているようだ。

グループ 4

75 分の動画を準備するのは大変であり、動画を 20 分、残りの時間をタスクに費やす授業もある。合成音声を使っている講師もいる。課題提出には manaba よりも Google Forms の方が便利。学生や講師のコミュニケーションが課題となっている。学生に直接連絡を取ることがしばしば、課題を提出してもらうための解決策となる。

全体での議論

残された問題点や論点の集約を中心に討論が行われた。論点の一つは期末試験で、上記の解決策以外にも、学生によるビデオ作成などの創造的で協力的な解決策が提案された。学生との連携については、Zoom ブレイクアウトルームでの自己紹介タスクや Flipgrid による動画の相互コメントなどが提案された。カメラオンについての疑問が残った。イベント後の反応はポジティブで、「C モジュール後にフォローアップイベントを開催して期末試験の話をしたい」などの意見もあった。このイベントは現在、CEGLOC FD 委員会で検討している。

—2020 年度 第 3 回 FD イベント—

タイトル：第 2 回 外国人研究者のための科研費セミナー
開催日：2020 年 7 月 7 日（月）9:00 ～ 11:00
会場：筑波大学（オンライン）
主催：グローバルコミュニケーション教育センター FD 委員会
共催：人文社会系、URA、ICR

概要

7 月 7 日、CEGLOC FD 委員会は、第 2 回外国人研究者のための科研費セミナーを開催した。このセミナーは、日本学術振興会の助成金申請書の作成に関心のある教員・研究者を対象として開催された。

活動内容

セッション 1

本セッションでは、小野雄一教授が「私の経験から見た採択される科研費申請の要素」を発表した。講演では、応募者の過去の研究論文とそのレビュー、明確で実践的な研究計画、及び視覚的なアピールに焦点が当てられ、それまでの研究計画にどのような変更を加え、それが採択にどうつながったかを論じた。

小野氏は、応募者が過去やレビューをプロジェクトの議論の材料にし、ブレインストーミングすることの重要性を強調した。ブレインストーミングは、学術分野のみならず過去の業績にも関連した明確な研究計画を書くことにつながるためである。また、査読者の立場から自分の研究計画書を考え直すことを主張し、重要な科学的疑問、研究の意義と独創性、そして何をどの程度、どのような手段で解明するのかを明確かつ具体的に記載すべきだとアドバイスした。そのため、視覚的な訴求力も重要な要素となると述べた。ビジュアルは、注意を引き、信頼できる情報を提供するために、シンプルで明確でなければならない。

質疑応答では、論文などの業績がない場合は、セミナーなどの発表をベースにした研究が鍵となること、申請書で重要なのは使用言語ではなく内容であること、カラーの画像は十分なコントラストを持たせたものを選ぶこと等の提案があった。

セッション 2

ヴァンバーレン・ルート准教授が「申請のサクセスストーリーにおける普遍的な要素とは何か」と題する講演を行い、申請書を書く際の BEST の実践方法を紹介した。BEST とは、「予算」、「早期スタート」、「ストーリーの中のストーリー」、「適時性」というキーワードで構成されている。

「予算」については、適度な予算でお願いすることを提案した。また、配分された予算の 3 割が大学に行く「間接経費」であるため、計画的に進めることが重要であることを指摘した。2 つ目の「早めのスタート」は、助言を求める時間があることを意味し、5 月に出願手続きを開始することを勧めた。3 つ目の「ストーリーの中のストーリー」は、構造を重視し、要約の簡潔なバージョンとして読むことができる研究要約の特定のセクションを強調した方法を示すと説明した。そして、最後の「適時性」に関する説明では、「自分の分野で話題となっているもの」や日本社会の時事問題を意識し、学会等に積極的に参加することの重要性を強調した。

質疑応答では、予算削減に対応する戦略としては、予算を少し多めにお願いすることを念頭に置きながら、現実的な予算を作ること、また、分野を切り替える際には、経験豊富な研究者との共同研究を検討することを進めた。

セッション 3

筑波大学研究総務管理室研究アドミニストレータの栗原省吾氏が「2021 年度科学研究費補助金（科研費）申請に利用可能な支援について」と題する講演を行った。

講演では、評価者にとって興味のあるプロジェクトについては、科研費のホームページ（https://kaken.nii.ac.jp/en/）でキーワードを検索してみることや、同僚や同じ学会に所属している人が評価者になる可能性があるので、研究会に積極的に参加してみることを提案した。

続いて、「科研費ヘルプデスク」サービス、研究管理者への相談から申請書の改善までの流れ、「科研費ハンドブック」、「科研費パンフレット」、「日本学術振興会の申請方法」、「文部科学省の申請方法」の情報源について説明した。

栗原氏は、研究アイデアを練ることを「プレセッション」（５月～７月）に、下書きと申請書の仕上げを「宿題シーズン」（８月～９月）に、企画書を提出する段階を「ゲームデー」に例え、効果的なスケジューリングを提案した。また、アスリートがよく使う 4C（Commitment, Composure, Concentration, Confidence）と呼ばれるテクニックを使うことを推奨した。

質疑応答では、URA のフィードバックには通常 5 営業日程度で回答が返ってくることがわかった。

最後に

セミナーには 34 名が参加し、うち 22 名がアンケートに回答した。参加者の大半は教育関係者や研究者であり、他大学の教員も数名参加した。

4 名の参加者が提供された情報の有用性に不満を持っていたが、「非常に参考になった」「とても良かった！」などのコメントが寄せられ、ほとんどの参加者がプレゼンテーションに全体的に満足している。

今後の CEGLOC FD 委員会企画のテーマとしては、L2 英語学習者のためのアカデミック・ライティングや、文化を超えた人のマネジメント方法などが提案された。

—2020 年度 第 4 回 FD イベント—

タイトル : オンライン教育経験の共有
日時 : 2020 年 9 月 25 日（金）9:00 ～ 10:00
会場 : オンライン（筑波大学）
主催者 : グローバルコミュニケーション教育センター FD 委員会

概要

9 月 25 日、CEGLOC FD 委員会は 2 回目の Zoom セッションを開催し、現在のオンライン教育の実践についての意見や経験を交換した。イベント目的及び活動内容は、第 2 回 FD イベントと同様である。

活動内容

合計 9 名の参加者が 2 つのブレイクアウトルームで小グループディスカッションに参加した。

その後、各グループがメインセッションで話し合いの内容を報告し、参加者全員とのディスカッションセッションを行った。話し合いの要点は以下の通りである。

小グループ報告とコメント

グループ 1

このグループのメンバーは、LINE、Zoom、manaba、Teams、Flipgrid などのプラットフォームを利用している。 4 人で発音練習の効果的な方法、宿題提出率をアップさせる方法､学習者の様子など把握しにくい問題点について話し合った。発音練習に関しては、同期型授業と非同期型授業を半々にし、リアルタイムで直接フィードバックをすること、その際 3 ～ 4 人のグループを作って練習させるなどといった提案があった。また、宿題提出率を上げる方法としては、宿題を授業評価の一部とすることが挙げられた。 3 つ目の話題については、学生が書いたものを画面越しに見せてもらうことや写真ファイルを OneDrive で提出させること等が提案された。

グループ 2

第 2 グループは、同期型授業を好む学生と非同期型授業を好む学生とのずれによる授業運営の難しさ、プライバシーの確保、またプレゼンテーションを行うときの対応について話し合った。解決策としては、Flipgrid の活用が提案され、その機能・使い方の説明が行われた。

再結集されたグループディスカッション

グループの報告に続き、参加者全員でのセッションでは、発音指導とフィードバックについて公開討論が行われた。そして、最後にイベント開催者による Respon の使い方の説明と質疑応答が行われた。

参加者数は第 2 回よりも少なかったが、今後も、特に新任教員を交えて意見交換・情報提供をする場として、同様のイベント開催を検討することとなった。

—2020 年度 第 5 回 FD イベント—

タイトル：第 4 回 CEGLOC カンファレンス
　　2020 年における語学教育：緊急遠隔授業とブレンド型学習
開催日：2020 年 12 月 5 日（土）9:30 ～ 18:00
会場：筑波大学（オンライン）
主催：グローバルコミュニケーション教育センター FD 委員会
共催：JALT CALL 分科会、JALT 茨城支部

概要

教育のオンラインへの移行は、いつでもどこでも柔軟に授業や学習をすることを可能にする。しかし、COVID-19 の世界的な流行により、この移行はかつてないスピードで進行している。最初からオンラインのために計画・設計された教育実践と異なり、緊急遠隔授業 (ERT) は危機的な状況下で従来の指導方法を一時的に代替するものに過ぎない。この移行は、通常であれば対面式やブレンド型学習で行われるような教育実践の完全な遠隔での提供を含む。

こうした背景から、特に外国語教育に関連した緊急遠隔授業やブレンド型学習について、現在進行中の研究を共有し、アイデアや最近の経験を交換するための場を提供することを目的として会議を開催した。議題にはモダリティ (完全オンライン対ブレンド型)、学生と講師の同期的コミュニケーション、教育学的実践 (説明的、探索的、または共同作業)、講師と学生のオンラインでの役割、オンライン評価の役割、講師や学生相互のフィードバック、学生のオンラインでの社会的相互作用、およびその他の関連する実践が含まれる。

プログラム

09:50 10:00 開会の挨拶 CEGLOC センター長 臼山教授 , 筑波大学				
	Breakout room 1	**Breakout room 2**	**Breakout room 3**	**Breakout room 4**
10:00 10:30	**Cihi**, Measuring the Effects of TGT Cooperative Learning on Online Vocabulary Acquisition	**Ismailov**, Assignment Design for Emergency Remote Classroom: Effects on Student Motivation and Learning	**deBoer**, Fold of Folds: A Conceptual Model for Zooming your Classes	**Sekiguchi**, 2 つのタイプのオンライン授業の方法；Hybrid と Face to Face
10:35 11:05	**Laurier**, Social Distancing Does not Mean Socially Distant: Showing How ERT Can Help Develop a Community Environment	**Gale & Kapala**, Challenges and Improvements for Remote Learning in a Japanese University Context	**Coaxum**, Enhancing Grammar Accuracy & Confidence through Podcasting	**Takano**, Perspectives of Students and Parents: How Remote Project-based Language Learning Helps Learners
11:10 11:40	**Yamada**, The Pandemic and New Opportunities in Language Courses for Media Literacy Instruction	**Tohei**, Creating an Asynchronous Emergency Remote Classroom for Low Level First Year Learners	**Raine**, TeacherTools. Digital: Digital Assignments for 21st Century Teachers (Commercial)	**Drought**, Emergency Online Learning: Success Story and Lessons Learned (Commercial)
11:45 13:15	基調講演 1: Jennifer Parker, Pepperdine University Increasing Student Engagement in Flipped Online Learning + Discussion			
13:30 14:00	**Busso**, Using Padlet to Enhance Online Collaboration	**Yang**, To Kahoot! or not to Kahoot!? An Investigation of College Learners' English Vocabulary and Collocation Performance	**Innes**, Teacher Detection of Machine Translation in Student Work	**Shiroyama**, Task-Based Language Teaching (TBLT) in CALL Framework
14:05 14:35	**Wrobetz**, Avoidance or Integration? Handling Automatic Translation Software in Online EFL Courses	**Ohata**, 日本語習得研究におけるオンライン調査法の一考察	**Warfield & Journeaux**, Social Presence in Online Learning; the Role of Feedback	**Remmerswaal & Barington**, Teacher and Student Perceptions of Auto-graded Assignment Efficacy
14:45 15:15	**Cancelled: S. Fathali**, An Exploratory Study of Barriers and Opportunities of Shifting to Online Education: A Case of Iranian EFL University Students	**Vanbaelen**, Learning Management Systems during Emergency Remote Teaching: The Need for Continuous Adjustment to the Target Group	**Kovalyova**, Impact of COVID-19 on the Learning Preferences of EFL Learners and Attitude towards Online Education	
15:20 15:50	**Carloni**, Foreign Language Education and Digital Learning in a Time of Crisis: Challenges and Affordances	**Nealy**, Benefits and Deficits of Online Learning in the English Language Classroom	**Woodward & Padfield**, Asynchronous Online Debate Preparation Using Kialo Edu	
16:00 17:30	基調講演 2: Assoc. Prof. Betsy Lavolette, 京都産業大学 From Emergency Remote Teaching to Online Learning: The Role of Professional Development Discussion			
17:30-17:45 閉会の挨拶— Cecilia Ikeguchi, JALT Ibaraki Chapter				
17:45-18:30 Casual Get-together				

会議データと調査結果

会議には国内だけでなく、ベトナム、米国、英国、フィリピン、インドネシアなどから教育関係者、研究者、大学院生など 89 名が参加した。アンケートでは大半の人が「有意義」「全体的に満足」と回答した。ほとんどの参加者は会議の期間は適切だったとしているが、一部の参加者は出席できなかったセッションのビデオへのアクセスを希望している。多くの参加者が次のワークショップの開催を希望し、「学習者の代理人」から「著作権侵害法」まで様々な議題が提案された。

謝辞

CEGLOC FD 委員会は、CEGLOC センター長臼山教授、JALT 茨城支部長ポーリー教授、JALT CALL 分科会広報委員長フォーサイス教授のご協力に感謝の意を表します。また、大会前の CEGLOC スタッフの実践的な支援や、英語と日本語に堪能な意欲的な大学生数名の現場での支援にも感謝しています。

CEGLOC FD 委員会を代表して
編集係
アンケート係